

第 25 回

第 3 章 国際社会に生きる日本人の自覚

国際社会に生きる日本人

今回学ぶこと

戦後の日本人の価値観の変遷を振り返る。また、日本人が伝統思想をどう活かし、さらにそこからどのようにして新たな思想をつくりあげていくべきかを検討してみる。さらに、国際化のなかで、日本人はどのようにして世界に貢献できるかを考えてみる。



講師
田中久文

今回のキーワード！

戦争放棄／主権在民／古い思想と新しい思想／
日本文化の長所と短所／国際貢献

戦後思想の動き

戦後の日本は、第二次世界大戦への深い反省から出発した。それが具体的な形をとって表れたのが『日本国憲法』である。そこでは、外に対しては平和主義をうたうとともに、内に向かっては民主主義を掲げた。それは戦後日本社会の基本的な枠組みをなすものである。

しかし、1960年代になると、日本人の価値観がそれまでと大きく変わり、経済優先となる。そして政治的社会的な問題には関心を示さず、自分の家庭だけを大切にしようとする、いわゆる「マイホーム主義」の人たちが増えていった。

さらに現代の日本は、情報化社会が進展し、インターネットの普及が人と人との新たな結びつきを可能にさせた。しかし、それが現実の人間関係を希薄にさせてしまうという問題も生じている。

伝統と革新

日本人は、海外の文化を積極的に取り入れる姿勢を変えることなく、しかもそこに、これまでのように日本人独特の工夫を加えることによって、世界に発信できるような文化をつくりあげていくことが必要であろう。

日本人が外来の思想を積極的に取り入れてきたという姿勢は、これからも失ってはならないが、外来の新たな思想に出会うと、すぐにそれに飛びつき、古い思想を捨ててしまう傾向が強いように思われる。それでは、めまぐるしい思想の変化があるばかりである。

これからは、古い思想を安易に捨てるのではなく、それを新しい思想とうまくかけ合わせることによって、成熟した思想をつくりあげていこうとする姿勢が必要であろう。

世界の中の日本人

これからの日本人は、国際化のなかで日本人としての主体性をどう確立するか考える必要に迫られている。そのためには日本文化の長所・短所を見極めたうえで、日本人としてどのような国際貢献が可能なのかという問題を真剣に考えていかなければならない。

日本人は昔から外来の思想や文化を積極的に学んできた。そこにはいろいろと問題があったにせよ、異質な文化に対して絶えず眼を注ぎ、それらを積極的に取り入れようとしてきたことは、それ自体決して悪いことではない。

これまで指摘してきたような問題点をつねに意識し、それを克服しさえすれば、日本人は国際社会のなかで、多様な価値観をもった人々と柔軟に付き合うことができる可能性を十分にもっているといえよう。

Tanakaコラム

新たな思想をめざそう

丸山真男によれば、これまでの日本の思想の世界は「雑居」状態だという。「雑居」ビルのように、さまざまなものが雑然と並んでいるだけで脈絡がないということです。

それに対して丸山は、これからは「雑種」をめざせとっています。古い思想を捨てて新しい思想に飛びつくのではなく、むしろ両者をかけあわせることによって独自の思想を自らの力で創造しろということです。動物も「雑種」のほうが生命力が強いといえますよね。